8月13日（木曜日）「洗礼者ヨハネ（2）説教」

【新改訳 2017】

ルカ　3•7－14

「それで、ヨハネは、彼からバプテスマを受けようとして出て来た群衆に言った。『まむしのすえたち。だれが必ず来る御怒りをのがれるように教えたのか。それならそれで、悔い改めにふさわしい実を結びなさい。・・・・・』」（7、8節）

　これは主の先駆者ヨハネのメッセージの一部です。彼の使命は、罪が赦されるための悔い改めに基づくバプテスマを説き行うことでした（3 節）。このため、「バプテスマの（または洗礼者）ヨハネ」とも呼ばれています。

　彼は、旧約時代の預言者のようでした。罪の指摘は厳しく、また表面的で形だけの悔い改めや信仰を断罪しました。本当に悔い改めるなら、必ずその実を結ぶはずであり、その実が見えないのは、形式的にしかしていないからだと責めています。ここでは冷淡、不正、暴力などを指摘しています。

　私たちの悔い改めはどうでしょうか。御子イエスの十字架の贖罪を信じているにふさわしい実を結ぶ者でありますように。

～祈り～

主よ。私の表面的で不十分な反省や悔い改めをおゆるしください。御子のいのちを犠牲にして与えられた贖罪を受けた者にふさわしい実を結ぶことができますように。

【学びのために】

「まむしのすえたち」とは、大変厳しい表現です。まむしは毒をもっていて、人々に危害を加えることから、罪の影響の深刻さを表すための強調された表現でしょう。